

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 くきのうみ 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 無回答率は低い。 ・ 文章を読んだり、話を聞いたりして理解したことに対して自分の考えをまとめる問題への正答率が高い。 ・ 自分の考えを工夫して分かりやすく伝える等の思考力・判断力・表現力を問われる問題に課題が見られる。
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漢字や敬語の使い方等の基礎的・基本的な知識・技能に関する問題 ・ 文章や会話の内容をとらえ、要約したりまとめたりする問題
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章と図表を結び付けて、文章の内容を正しく読み取る等の「読むこと」に関する問題 ・ 読んだり聞いたりしたことを基に、自分の考えを分かりやすく工夫してまとめる等の「書くこと」に関する問題

算数	全体的な傾向や特徴等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 無回答率は低い。 ・ 正確に立式したり計算したりする等の基礎的・基本的な知識・技能に関する問題への正答率が高い。 ・ 割合等の「変化と関係」、グラフや表を活用して課題解決を図る等の「データの活用」に関する問題に課題がある。
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図形の意味や性質を理解したり、基礎的・基本的な四則計算をしたりする等の知識・技能に関する問題
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 割合について正しく理解したり、比例・反比例の関係を説明したりする等の「変化と関係」に関する問題 ・ 表やグラフから数量の関係をとらえたり、数量の関係を言葉や式で説明したりする等の「データの活用」に関する問題

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「読書は好きですか」という項目に対する肯定的回答率が高く、読書時間も全国平均よりも長い傾向にある。朝の学習の時間に全校一斉読書の時間を設定したり、児童会を中心として読書を促す取組を計画的に実施したりした成果であるといえる。 ・ 「学級の友達と話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりすることができていますか」「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」のような話し合い活動に関する項目への肯定的回答率が低い。また、ICTの活用に関する項目に対して、肯定的に回答した児童は多くない。各教科等の目標に照らし、ICTの効果的な活用を含め、授業内外で話し合い活動を充実させ、児童が自分の考えを深めたり広げたりすることができるよう、さらなる授業の工夫・改善に全校で取り組んでいく。 ・ 「自分にはよいところがあると思いますか」という自己肯定感に関わる項目への肯定的回答率は、前年度比では改善傾向にあるが、決して高いとはいえない。児童が自分自身や友達によさに気付き認め合うことができる活動を充実させる、全職員からの肯定的な声かけを積極的に行う等の取組を継続する。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・ 専科指導及び持ち合い授業、「対話的な学び」に焦点化した主題研究の推進、ICTの効果的な活用を通して、各教員の得意や専門性を生かしながら、児童が自分の考えを深め、広げることができるような話し合い活動を充実させる。 ・ 朝の学習の時間を有効に活用し、基礎的・基本的な内容の定着を図るとともに、発展的な内容に触れる学習を計画的に行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校行事や異学年交流活動等、児童が誰かの役に立った実感を得て、友達とよさを認め合うことができるような教育活動を年間を通して充実させる。 ・ 個人懇談会等の機会を効果的に活用して、児童のよさやがんばりを保護者と共有し、家庭と連携して一人一人の児童の自己肯定感の向上を図る。
